人間を一番尊重するのはどんな制度の国かを知った

訪中から帰って民青の小山さん語る

中国建設の働き手として中国の中心的な青年団体である中国共産主義青年団、その統一組織である中国全国青年連合会から招待されて訪中した民主青年同盟十名は、九月十日羽田空港を出発し約一カ月間の訪中ののち、去る十月十七日全員無事に帰国した。

この訪中団に三池からも三川支部の小山昇氏が一員として加わり、十九日元気な姿で帰山したが「どういつた国が、社会制度が一番人間を尊重するかをマザマザと見せつけられてきた。これがこんどの訪中で得た一番大きな収穫であつた」と語り「これからの闘いに確固とした展望と確信をもつてきた」と元気に述べていたが、たくましく前進する中国の姿や参列した国慶節の印象などをつぎのように語つて貰つた。

生産向上の大衆運動

九月十日エールフランス機で羽田空港を飛び立ち、香港経由で十一日中国の土を踏んだ。

そして杭州をはじめとして北京、東北地方（満洲）しん陽、ぶ順、鞍山、それから国慶節参加のため再び北京へ引返し、延安、重慶そして山海関に行く予定だつたが、上海で浅沼委員長刺殺の報を聞きまた日本の闘争も重大なときにきているなどで、はじめに予定されていた二カ月の日程を縮めて一カ月と一週間で切上げて帰国してきた。

現在の中国の情勢は一九五八年、五九年の大躍進をかちとり、いま六〇年いわゆる総路線、大躍進、人民公社といつた思想に近づき、生産を上げようという国民の、大衆運動が行なわれている。

工場、農村の別なく技術革新、技術革命で、労働者は自分たちで生産を高めるために合理化を提案し機械を替えるなど、大衆運動が目覚ましく行なわれている。

素晴らしい国慶節

国慶節は現在の中国の人民の姿をあの天安門の前に集約した形であるといつてもよかつた。

午前十時、合図の号砲がなると毛沢東主席が天安門に姿を現わす、義勇軍行進曲がなり響く。

東西三〇キロにわたる道路を四、五十万の北京市民が行進する壮観さは言葉で現わされない。ビルマのウーヌ首相をはじめ、アルゼリヤの人民解放軍議長、各国の青年団体、民主団体がズラリと来賓席にきていた。

日本からは私たちをはじめ新劇人平和委員会（団長柳田謙十郎氏）国民会議団、国鉄労組、日中友好協会の各代表団など十三団体二四〇名が参列した。日本の代表団はビルマについで第二だつた。私は中国人民の現在の姿を目の前に見て、これが再び社会主義建設に取組んでいる人民の源泉になるのだと感動をもつて見た。

それと同時に中国人民がいかに中国共産党と毛沢東首席の指導の下に結集しているか、そして毛沢東主席、共産党が大衆の創意性、自発性をうまく吸上げて無駄なく、早く、立派に仕上げて人民に呼びかけたから、人民はそれを容易に受入れたのだということがわかつた。

帝国主義に断固と対決

中国を見るに当つてどういう観点から見るかというと、資本主義が高度に発達した日本と較べて見ることは正しくないと思う。

解放前の封建専主、官僚、帝国主義下の人民の姿と、解放後の人民の姿、これを較べて見ることが一番重要ではないかと思う。解放前と較べると驚くばかりである。

私たちぶ順、しん陽、鞍山などの青年労働者をテーマとして歩いたが青年労働者に限らず労働者は高度に発達した日本と較べて見ることは正しくないと思う。

解放前の封建専主、官僚、帝国主義下の人民の姿と、解放後の人民の姿、これを較べて見ることが一番重要ではないかと思う。解放前と較べると驚くばかりである。

私たちぶ順、しん陽、鞍山などの青年労働者をテーマとして歩いたが青年労働者は成果を生きいきと歌いあげ、各うたごえの充実した活動を如実に示してくれました。とくに、地元の〝夕張わかもの合唱団〟をはじめ各団体から十数枚の寄せがきや花たば、創作曲集、五万三千円にのぼる多額のカンパ金など、三池闘争支援に寄せられた友情と激励に心から感謝の意をあらわすとともに十一万人体制打破のため、ともに闘いぬく決意を再度響いあいました。

労働者階級の前進のため、北と南の連帯感をさらにたかめる交流を強化し、真の地下産業労働者の統一と団結を勝ちとらねばなりません。

〝闘いは、まさに今から〟こんども闘いのなかで力いつぱいたたいつづけましよう。

× × ×

友情と激励に感謝

道炭労うたごえに参加して

〝第五回北海道炭鉱のうたごえ〟は九月二十四、五の両日、北海道夕張市夕張会館でひらかれたが、道炭労うたごえサークル協議会から招かれて、三池から古賀力（宮浦）、岩下幸則（四山）、高口勝幸（三川）、山下稔（本所）氏ら四名が出席した。

帰山後、うたごえの模様をつぎのように寄せられた。

× × ×

〝安保と合理化粉砕のうたで団結しよう〟のスローガンのもと、第五回北海道炭鉱のうたごえは九月三十四、二十五日の二日間、北炭三山分離の激しい嵐のなかで全道の炭ほる仲間たちが、夕張の地に結集し力強くひらかれました。

私たち四名は北海道うたごえサークル協議会の招待をうけ、三池労組の代表として参加し、北と南の友好と交流を十分にふかめあうことができました。

【第一日目】　各居住区や地協ごとに前夜祭の会場（天竜グラウンド）へ、堂どうたる〝うたごえ行進〟がおこなわれ、赤旗の波とデモのウズは、合理化をハネかえす炭鉱労働者のたくましさを示し、「炭ほる仲間」の大合唱は夕張の美しい山やまにひびき、不屈の闘魂は赤あかともえあがつたのです「頑張ろう」の歌と踊りは肌さむい会場周辺の空気をふツとばし、参加者の意志の統一をいつそう高めることができたと思います。

【第二日目】　本祭典の会場、夕張会館周辺は「闘いのうたごえ」に結集しているか、そして毛沢東主席、共産党が大衆の創意性、自発性をうまく吸上げて無駄なく、早く、立派に仕上げて人民に呼びかけたから、人民はそれを容易に受入れたのだということがわかつた。

会場で挨拶する三池の代長たち

勇敢に闘う友へ

ポーランド乙女から激励

ポーランド共和国の若い女性ボンコフスカ・スジスラーヴアさんから、力づよいはげましの手紙がとどけられました。この手紙は、日本の平和と自由をかちとる中核となつて闘う三池の私たちにとどけられたものです。私たちは海をこえたポーランドの仲間からのはげましにこたえて、不屈に闘いぬきましよう。

× × ×

親愛なる日本のみなさん。

私は十九才になるポーランドの乙女です。

私は人生のことや社会のことについて、大きな関心をもつています。そして、私はみなさんが自由と平和のために、勇敢に闘つておられることに強く感動しました。

ポーランドは平和であり、労働者がきづきあげた自由がありますが、みなさんたちはいま自由と平和のためにに闘いつづけられているのですね。がんばつてください。そして、自由を闘いとり、みんなの力でみなさんの祖国を滅亡から守つてください。

みなさん。困難や苦しさにくじけてはいけません。日本民族はすぐれた民族であり、決断力に富みねばりづよさをもつています。だから、みなさんはけつして崩れ去ることはないでしよう。

私たちポーランド人は、人類にとつて戦争がどんなに残酷であり不幸をもたらすかをよく知つています。

みなさん。希望をうしなつてはいけません。強くなつてください。万難を排してたたかつてください。

私たちポーランド人はあなたがたを援助します。私にできることなら、そしてこんなに遠くはなれていなければ、あなたがたを直接自分の手でお助けしますのに。でも、私はたいへん遠くにいるのです。それでも私はあなたがたの味方であり、私もみなさんのストの戦列にあるのだと考えています。

みなさん。あなたがたの正しい闘いにたいしてストやぶりをしようとする者や、あなたがたに反対する者、裏切り者や反動どもをたたきふせてください。

あなたがたが真に人民の声を代表しているのです。あなたがただけが正しいみちをすすんでいるのです。そして、未来はあなたがたのものです。

みなさん。闘いのなかで弾丸と銃剣をおそれてはいけません。何人かの兄弟が、息子がうしなわれるのをおそれてはいけません。不屈に闘つてください。そして、反動どもや裏切り者、人民の敵をたたきふせてください。誇りと自信をもつて闘かいましよう。正しさと未来を創造するために闘いぬいてください。屈することなく頑張つてください。自由と平和のために闘つておられる全日本の労働人民と子供たちとお母さんたちに心からの挨拶を申しあげます。

ポーランドの田舎の乙女からの挨拶の手紙をうけとつてください

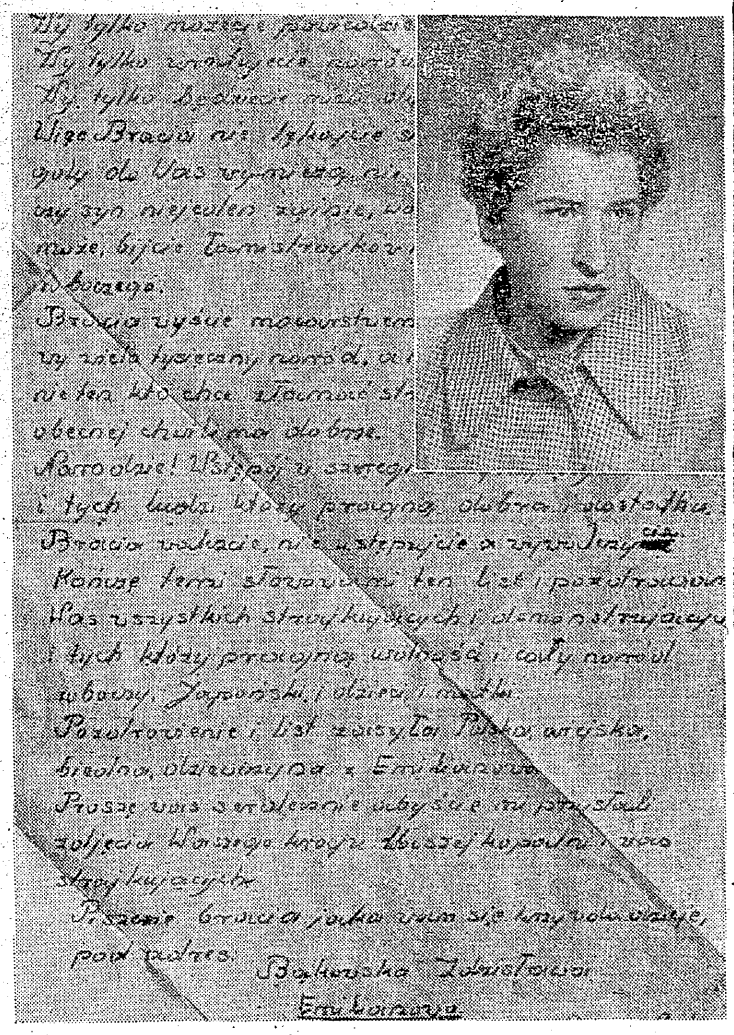
闘つておられる日本の炭鉱労働者の写真を私におくつてくださるようお願いします。そして、あなたがたに加えられている敵の攻撃の模様をお知らせください。

ボンコフスカ・スジスラーヴア

（私の写真を同封します）

【註】ポーランドはヨーロツパ中央部にある人民共和国です。約四百年にもおよぶ長いあいだドイツ、プロシヤ、ロシアなどの帝国主義に植民地として支配されていたが、労働者人民の闘いによつて第二次世界大戦後、一九四八年に完全に独立し、社会主義となつた国です。

※ボンコフスカ・スジスラーヴアさんと手紙の交流をされるかたは、あてさきをお知らせしますので本部編集部まで問いあわせてください。



写真は励ましの手紙とスジスラーヴアさん

天皇歓迎と日の丸

九炭労　野中三郎

十月二十一日大牟田駅は化粧がすんだ女よろしく、すつかり飾りつけがしてあつた。労働者たちが疲れた体をもたせかけるホームの柱は紅白の布がまかれ天井は原色のモールが、あつちこつちへはしつている。駅員たちが神経質にホーキをもつてうろうろしている。

わたしはこの光景をみて「あれつ、今日は何んだろう。二十日エビス祭でまさか駅が……」と自問した。そこえ例の白ナンバー三一二四〇〇の大型乗用車が「国体へご出席のために、天皇陛下が午後三時何分に大牟田駅をご通過になります。市民のみなさん国旗をたてましよう」と放送して走り去つた。

駅の飾りつけはそれだつた。熊本へ行くため二人のお召列車がここを通過するが、停車は三十秒とのこと。わたしはへんなことを連想した。

それは例の三一二四〇〇番のプレートをつけた車は、大牟田駅へ行くため二人のお召列車がここを通過するが、停車は三十秒とのこと。わたしはへんなことを連想した。

それは例の三一二四〇〇番のプレートをつけた車は、大牟田の合間に三池の話もやつたし、短い時間を利用して各地で報告したとくに炭順では特別に私は時間を四十分貰い、報告を行なつた。

ら安保闘争の経過を話したが、そ

再建運動本部の放送車に、あるいは何ともえたいの知れない団体の放送車に、何とか教育連盟とかの放送車になるあの車、今日は何んの団体の記号もつけていない。天皇を迎えるため国旗を、といつているものが「どんなものたち」かが、想像でき、おそらく天皇も国旗のたつた風景のウラにある真実を知ることがもしできたら、「イヤーな気になるだろう」

それから、わたしたちの先輩がもし生きて、わたしたちに語りかけることができるなら「よか時勢になつたばい。俺たちのときは、だね」と、天皇がそこを通過するだけの理由で、大衆運動ーそこには社会党員・共産党員または無党派の区別なく、保護ということ、で、大牟田署に

ぶちこまれ、あるいは大牟田拘置所に入れられたことを話したことだろう。

それがいま、多くの市民が三十秒の停車にこれ懸命と数少ない駅員をおいまわして掃除させる国鉄当局、日の丸の正体を見せながら走りまわる大型乗用車を苦々しく見つめるまでになつたこと、そこに「民主市民」の姿をみた。

たぶん秋晴れのいい天気だしおばあちやんおじいちやんたちを中心に、天皇が通る時間は大牟田駅はうずまるかも知れないが、それはそれでいい、そこには本当の日本人民の姿はない、と空を見上げながら帰つてきた

上海で浅沼暗殺を知る

浅沼委員長刺殺は十三日上海で知つた。新聞はトツプで取扱つた。中国はつねに日本の動きに非常な関心をもつており、池田内閣のフアツショ的側面を全面的におし立ててきたのが浅沼刺殺事件だと人々は語り、「中国人民は日本人の闘いを支持し、共同の敵に対してともに闘う」と励まされた。